

福崎君の 若葉の蔭から

福崎 かずたろう

第5回 新車ノロケ話 及び 自動車購入 について考える

はじめてエスクードの存在を知ったのは5月28日の朝刊の経済欄の新製品の紹介だった。その日の仕事を終えてイチモクサンに鈴木自動車へかっ飛んだ。カタログを手に取り私はつぶやいた。

「これ以外ない・・・」

とにかくこの車はいい！と素直に感じてしまった。オフロード志向のあった私は、この秋にも同じスズキの四輪駆動車（以下四駆と呼ぶ）「ジムニー」を買うつもりで、ある程度貯金もしていたのであったが、いまひとつふんぎり切れないところがあった。というのは、ジムニーはもろに「ジープ」型の形態をしており、オフロードだけなら良いのだが、通勤には乗り心地や騒音や安全性の面から言って、ちょっと使えないのではないか、などと うっすら考えていたのである。

ちなみにアメリカのなんとか消費者センターが輸出向けジムニー（サムライ）が、高速で急ハンドルを切ったら横転しやすいので危険だあ〜などとほざいたらしいが、私に言わせれば、そんなのは当たり前である。オフロードを走らんがために車高を高くし、ホイールベース（前輪と後輪の距離）を狭くした車が横転しやすいのは至極当然のことである。特にジムニー（サムライ）はオフローダー中のオフローダーと言われ、ホイールベースが極端に短く車高は他の車より高く、そして車重も軽くしてある（他のオフローダーが1.5～2トンクラスなのに対して、ジムニーは800kg）ので、横方向の力には大変弱いのだ。ユーザーもそれを知って購入するわけなのだが — 。アメリカのなんとかセン

ターは単に日本のメーカーに対しての嫌がらせがしたかったんじゃないか、などと勘ぐってしまいたくなる話だった。

ということで、「ちなみに」がやたら長くなってしまったが、そうゆうわけでジムニーは「毎日使います月間2000kmは走ります」という私の意向には沿わないのではないかとちょっと考えていたのだ。

それでは、他社の四駆はどうかといえば、一概に大きすぎて、「曲がらない・飛ばせない・悪燃費・車庫に入らない」と、まさしく四苦！であった。そして何よりも「高い！！」のである。ある程度の装備を加えると最低でも250万円、ヘタしたら350万なんて事にもなりそうだったので話にならなかったのだ。

ここ数年で街中の四駆（の中でもオフローダー）が異常に増えているのにお気づきだろうか。国産の乗用車の画一的なデザインに飽きた一部の小金持ちが、スパルタンなイメージのある四駆に鞍替えしているのだ。しかしそういった中で本当にイメージだけで（つまりファッションとして）、四駆を買った連中は使ってみて泣いている。ただでさえ大きな四駆はあまり街中での使用を考えて作られていないため、先ほど述べた四苦に苦しめられるのだ。千里なんかでもひいこらひいこら言いながら狭い立体駐車場でハンドルを切っている御仁を見るにつけ、私はかわいそうに・・・などとは微塵も思わず、へっへっへ、甘いよ君たち、と鼻で笑ってやっているのだ。

しかしエスクードは違っていた。従来の四駆とは違う、という形態と様々な機構が取り入れられていた。まずエンジンは1600CCである。トヨタの自動車から言えば、カローラとコロナの間くらいであろうか。オフローダーでは普通、ガソリン車で2000CCから上が大勢であって、唯一ジムニーが550CCと1300CCのエンジンを積んでいたくらいであるので、このクラスは今までのオフローダーにはなかった。そして、低速重視ではありながら、乗ってみると100km/Hくらいまでは、あまりストレス無しに走るのだ。つまり、おてがるスポーツカー的要素を持っているエンジンと言える。そう、オフローダーとは言え、街中でも満足に走れないと困るのである。信号ダッシュで、トラックやらノーマルの軽自動車などに負けるようでは駄目なのだ。

足廻りは、丈夫さが必須であるオフローダーの多くは、旧式の板バネ（リーフスプリング）を使っている。これは丈夫さや保守面では一番なのだが、乗り心地がよろしくない。ということで、エスクードではコイルスプリングである。乗用車では当たり前であるこの方式であるが、スズキはいろいろ手を加えてオフ

ロード用に近づけている。ある程度の頑強さは失っても、乗り心地を優先させた、というところだろうか。しかし私はこれでいいのだ、と思う。毎日トラックの乗り心地で通勤したくはないもんね。軟弱う？

車体は、必要最少限度の大きさである。オフローダーという位置づけからして（ホイールベースが短いほうがよいので）、車長が短くなるのは致し方なし。2人乗りと思えば、全然狭くはない。実際、自分の利用方法を考えてみると、私ひとりで乗っていることがほとんどであると思えるので、充分である。車幅はトレッド（車輪間の幅）が広く取ってあるので、けっこう広い。ジムニーなどに乗ると大柄な私は、右腕がドアに圧迫されて苦しい感じであったが、エスクードではそんなことはない。大変よろしい。

インテリア

エクステリア（外装）

などということを私はカタログデータ、展示車、そして購入を決めると試乗までして感じ取った。

ここまで